

## 春の訪れを告げる鳥のさえずり

2022/5/10 自然環境部 陸域担当チーム 米田 豊

今年の冬、札幌では記録的な大雪となり、市内にお住まいの方は、交通障害や雪かきで大変にご苦労されたことと思います。そんな季節が過ぎ去り、春を迎えて路傍の雪もすっかり融け、草木が芽吹き花を咲かせ、季節が劇的に変化するこの時期ですが、みなさんは春の訪れを何によって感じますか。サクラなどの美しい花の開花でしょうか、それとも山菜などの春の味覚でしょうか。花粉症という方もおられるかもしれませんね。

今回のエコ森林通信は、春の訪れを告げる鳥の「さえずり」について紹介します。

鳥の鳴き声には大きく分けて「さえずり」と「地鳴き（じなき）」の2種類があります。（「さえずり」と「地鳴き」の区別は慣例的なもので、厳格な定義は難しいとされています。<sup>1)</sup>）

一般的に、「さえずり」は鳥類の種毎に特徴的で、長く複雑な目立つ鳴き方です。「地鳴き」は短く単純で地味な鳴き方です。

- ・さえずり<sup>2)</sup>：主に縄張り宣言や雌を呼ぶために、繁殖期の雄が発する鳴き声。
- ・地鳴き<sup>2)</sup>：さえずり以外の鳴き声。主に繁殖期以外の鳴き声を言う。ほかには警戒や威嚇の際の鳴き声、雛を呼ぶときなどの鳴き声を言う。状況に応じ使い分ける。



「オオルリ」美しいさえずりで、コマドリ・ウグイスと並ぶ日本3鳴鳥の一つとされる（筆者撮影）

「さえずり」の代表と言えば、ウグイスの「ホーホケキョ」ですね。ウグイスは、一年中「ホーホケキョ」と鳴いていると思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、これは「さえずり」なので、基本的には繁殖期（春～夏）に雄だけが「ホーホケキョ」と鳴き、秋から冬の間にはこの鳴き方はしません。

ウグイスは早春からさえずり始めることから「春告鳥」の異名を持ちます。この生態を活用して、気象庁ではウグイスがさえずるのを初めて聞いた日（初鳴）を記録し、サクラの開花などと共に、季節の遅れ・進みや、気候の違い、変化など総合的な気象状況の推移の把握を目的とする生物季節観測の1項目として用いていました<sup>3)</sup>。（2021年1月以降はウグイスの初鳴は、観測対象外となりました。）ちなみに札幌では、1953年から1984年までの初鳴きの記録があり、最も早い年で1968年の4月12日、最も遅い年で1964年の5月28日と記録されています。

このように人の生活にも身近な「さえずり」ですが、鳥たちにとっては、繁殖にとっても重要な役割を果たしています。繁殖期には、雄の鳥が「さえずり」を行い、雌を呼び寄せ求愛するとともに、ライバルである同種の雄に存在をアピールして縄張りを防御します。このような「さえずり」は、雌の好みによる性淘汰を受けて進化したとされており、一部の鳥類では、より複雑なさえずりを行う雄が雌に好まれるとともに、複雑なさえずりを聞いた雌は生殖行動が活発化するとされています<sup>4)</sup>。

複雑な「さえずり」を行う雄の鳥は、雌に好まれ繁殖の機会が増えますが、その反面、目立つ鳴き方故に捕食者に襲われる可能性も増えます。このようなバランスの基に、鳥は「さえずり」を進化させてきたのだと思われます。

春になると様々な鳥が繁殖のためにさえずり始めて、森林や草原が賑やかになります。みなさんも小さな鳥たちの生存・繁殖戦略に思いをはせて、「さえずり」に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

弊社では札幌市郊外に「エコニクス森林」を保有し、鳥類などの野生生物の生息環境として保全するとともに、自然環境に関する自社研究の場として活用しています。

1) 「鳥類学辞典」(2004年 昭和堂)

2) 「ウィキペディア (Wikipedia)」鳥類用語 (<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B3%A5%E9%A1%9E%E7%94%A8%E8%AA%9E>)

3) 気象庁HP 生物季節観測の情報(<https://www.data.jma.go.jp/sakura/data/index.html>)

4) 「これからの鳥類学」(2002年 裳華房)